

平成28年度

教養ゼミ（初年次教育科目）

実 施 状 況 報 告 書



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

目 次

経済学部 経済学科	1
経済学部 税務会計学科	1
経済学部 国際経済学科	3
人間文化学部 人間文化学科	4
人間文化学部 心理学科	5
人間文化学部 メディア情報文化学科	6
工学部 スマートシステム学科	7
工学部 建築学科	8
工学部 情報工学科	9
工学部 機械システム工学科	10
生命工学部 生物工学科	18
生命工学部 生命栄養科学科	21
生命工学部 海洋生物科学科	22
薬学部	24

経済学部 経済学科・税務会計学科

■ 担当者氏名

(代表) 早川達二

■ ゼミ数、ゼミの学生数

経済学科・税務会計学科所属の平成 28 年度新入生を学生番号順に 10 クラスに分割した。1 クラスあたり平均 20～22 人であった。

担当教員の所属学科は以下のとおりである。

- ・経済学科： 金丸純二、春名章二、藤本倫史、三川敦、吉田卓史
- ・税務会計学科： 泉潤慈、小林正和、日野恵美子
- ・国際経済学科： 鍋島正次郎、萩野覚(後期は尾田温俊)

■ 実施内容

担当教員がそれぞれの独自性を発揮しつつ概ね計画通り実施した。シラバスは教員によって若干異なるものの、大学生活へのオリエンテーション(学び、目標)、本の読み方、講義の取り組み方、図書館の利用方法、履修指導、コースの説明(2年次選択のための参考として)などはほぼ共通して扱われた。

具体例としては、以下のような内容があった。

- ・自己紹介
- ・時間割の作成、定期試験などのスケジュールの確認。
- ・1 年生が大学生活に馴染めるように生活指導、学修指導、履修指導、将来に向けたキャリア教育指導、各種相談を実施する。
- ・履修状況の確認と指導。
- ・発表を通じて、自己表現力をつけ、自分に自信を持たせる。
- ・ロールプレーによって、人の気持ち、学校・社会のルールを考える。
- ・メタ認知を取り入れ、3 年先の自分を見つめ、成長した自分が、今の自分を指導する。
- ・自分で考え、親と一緒に考え、今、何を勉強しておくのが良いか、どんな資格を取っていくのが良いか、人間として、どう生きるのが良いか等を書き出し、発表していく。
- ・中学数学のテスト、レビュー。
- ・英国EU離脱、トランプ大統領の政策を学ぶ。
- ・中国の文化と社会(大学祭発表準備)。
- ・アンケート調査の実施。
- ・自己啓発。
- ・文献購読。宇治拾遺を読む(仏を射る)。
- ・SPI の問題集を解く。
- ・新聞記事を読んで解説する。
- ・図書館の使い方、文献の検索方法、授業の受け方、ノートの取り方、家庭学習の仕方、レジュメ及びレポートの作成方法を習得する。
- ・テキストを使用して読み方を学ぶ。
- ・文章の書き方を学ぶ。
- ・プレゼンテーション。
- ・教養講座の受講。
- ・テキスト『大学生 学びのハンドブック 3 訂版』(2015、世界思想社)に基づく大学での学習についての指導。
- ・教員自身の研究に関する簡単な紹介。
- ・「備後地域の活性化に向けて、どのような産業を育成すべきか？」というテーマでレポートを提出。

■ 教養ゼミの特徴

初年次教育として「教養ゼミ」は、高校から大学への学習環境をスムーズに移行するための学習スキルを身につけて学習意欲の向上にも効果を挙げている。円滑な大学生活を送るために必要な知識や情報を得ることを重視する。また、意見交換の場として、教員とゼミ仲間とのグループディスカッションやプレゼンテーションなどを通じて、課題の探求力と社会の中で絆をつくるための自己表現力やコミュニケーション力を養っている。学生への連絡事項伝達の場としても貴重な時間である。

平成 28 年度経済学部で実施した教養ゼミの代表的な取り組みは、以下のとおりである。

- ・文献購読などを行い、レジュメ作成を行う。そうすることで PC スキルと情報収集の力を養う。
- ・プレゼンテーションを行い、ディスカッションをすることで、思考力と発信力を高める。
- ・レポートを提出させ、提出者に添削指導を実施した。
- ・新聞記事等を用いて現実の経済活動や企業・産業の説明を行った。
- ・小説を輪読して、意見交換を行った。
- ・特定のテーマについての発表と意見交換を行った。
- ・学生への諸連絡を行った。
- ・本学の附属図書館で本を借りさせ、その感想などを提出してもらった。
- ・大学祭について、スケジュールを確認させ、どの様な催し物に興味があるかなどを報告してもらった。
- ・学期途中に出席状況など自己点検をさせた。
- ・定期試験などのスケジュールなどを確認させた。
- ・SPI について説明をし、いくつか実際に問題を解かせた。
- ・LINE でグループを作り、それを使って質問に答えたりお互い情報交換をしたりした。

■ 成果

平成 28 年度経済学科・税務会計学科で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

- ・まじめに取り組む学生が出てきた。
- ・目立たず、きちんとする人が出てきた。
- ・多くの学生が、大変真面目であった。指示に従い、恥ずかしそうではあるが、勇気を出して発表していた。
- ・退学者が出なかったのが、成果といえる。
- ・学生は問題なく 1 年間過ごすことができたと考える。
- ・LINE で教養講座の日程を連絡したためか、参加率も高かった。

■ 課題

平成 28 年度経済学科・税務会計学科で実施した教養ゼミの代表的な課題は、以下のとおりである。

- ・各個人のスキルなどの差があるので、それらを全体的に高めていけるような指導を行う。
- ・学生が積極的に発言するようになることが課題である。
- ・教養ゼミの人数は 10 名程度が良いと思う。
- ・校外見学を実施したかったが、学生の賛同がなく行わなかった。
- ・テキストをどうしても購入しない学生が数人いて困った。
- ・今少し、自分の弱さに挑戦してほしいと思う学生もいるが、無理をすると小さくなってしまうので、見守っていくことが大切である。教師も学生と同じレベルまで下りて話し合うことが必要かもしれない。
- ・出席や定期試験を甘く考える学生がやはりおり、前期の取得単位数が少ない学生が数名出てしまった。特に、その点を注意していたが、さらにその点に気を配っていきたい。
- ・講義形式だったが、次回以降は学生の発表を取り入れたい。
- ・入試が学科別になった影響を受けて、平成 28 年度からの教養ゼミのクラス編成については一部で変更があり、国際経済学科の新入生のみからなる 1 クラスが特別に編成された。（経済学科と税務会計学科は合同。）

経済学部 国際経済学科

■ 担当者氏名

(代表)尾田温俊, 萩野 寛, 足立浩一

■ ゼミの学生数

22 名(うち留学生 5 名)

■ 実施内容

- ・図書館の使い方
- ・ノートテイクの方法とチェック
- ・中学数学のテスト・レビュー
- ・アメリカ大統領選挙に関するプレゼンテーション(日本語)
- ・海洋観光大学教育旅行研究大会に向けてのグループディスカッション(全員参加)
- ・海洋観光大学教育旅行研究大会の旅行制作フィールドワーク(しまなみ海道 7 名参加)
- ・Time 記事「Empathy(共感)の重要性」について
- ・中国の文化と社会(大学祭におけるパネル発表準備)
- ・Brexit に関する TED スピーチ(英語)
- ・欧米の歴史(英語)
- ・トランプ大統領の政策(英語)
- ・メキシコの経済社会
- ・アンケートと面談
- ・コンセンサス・ゲーム(SGD による)
- ・1 年次の振り返りと 2 年次の目標設定

■ 教養ゼミの成果等

- ・教養ゼミを国際経済学科単独で行うことにより学生同士に連帯感が生まれた。
- ・プロジェクトラウンジを利用したスモールグループディスカッション(SGD)を多く取り入れることができ、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを十分にとることができた。
- ・大学祭では中国の文化と社会について学科でパネル展示を行った。
- ・見学会・体験入学会で学科紹介や英語でのプレゼンテーションを行った。
- ・22 名中 14 名が海外研修に参加し異文化体験をし、現地子の大学生と交流するなど、グローバル人材に向けての動機づけができた。
- ・全員参加ではないが、フィールドワークを行うことができた。また、この成果として代表者 3 名が海洋観光大学の教育旅行研究大会全国大会で代表が発表をするなど、いい経験となった。
- ・5 名が福山市と福山留学生を支援する会主催の「ふくすぼ」にボランティアとして参加し、地域に住む外国人と交流した。

■ 問題点、改善点及び対応策

- ・教養ゼミで模擬店を企画したため、準備・実施の段階で人的資源が分散し、学生が学科展示に集中できなかった。来年度は学科発表のみとする。
- ・22 名という人数は少人数のきめ細かいサポートという面では人数が多い。15 名程度が適当である。
- ・大学祭の学科展示に向けて、学生が主体的に取り組む環境整備が必要である。
- ・英語に関しては、海外研修直後はモチベーションが高かったものの、後半には徐々に下がりはじめた。モチベーションを持続させる手法を考える必要がある。教養ゼミにおいて TOEIC と HSK の受験を推奨したが、受験率は期待したほど高くなかった。
- ・国際経済学科という特性から、来年度以降英語でのディスカッションができるレベルにまで 1 年次で語学力を引き上げるべきである。

人間文化学部 人間文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 重迫 隆司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

全1年次生 39 名

■ 授業のねらい

- (1) 1年生全員が教員全員と顔を合わせる。
- (2) 学生全員がお互いに交流を深める。
- (3) 大学における学修への動機付けを高める。
- (4) 卒業時の到達目標を明確化することで、自分に自信を持つ。

■ 学修の到達目標

大学生として必要なコミュニケーション能力の基礎となる力を身につける。

* コミュニケーション能力の基礎となる力: 聴く力、話題に参加する力、質問する力、自分の言葉で自信を持って発表(プレゼンテーション)する力など。

■ 実施内容

- 第1回(4/14)〈授業ガイダンス〉〈全教員〉
第2回(4/21)〈図書館ガイダンス〉〈全教員〉
第3回(4/28)〈保健管理ガイダンス〉〈全教員〉
第4回(5/12)〈人間文化学科で学ぶということ〉〈重迫+原〉
第5回(5/19)〈本について語る〉〈原+柳川〉
第6回(5/26)〈「本物」を見る、「本物」に触る〉〈柳川+山東〉
第7回(6/2)〈英語で自己紹介、日本紹介〉〈山東+重迫〉
第8回(6/9)〈物語の力〉〈青木+脇〉
第9回(6/16)〈言葉をめぐる冒険〉〈脇+清水〉
第10回(6/23)〈漢字と故事成語の文化〉〈清水+山川〉
第11回(6/30)〈ヨーロッパの歴史と文化〉〈山川+青木〉
第12回(7/7) プレゼン準備: テーマは、「〈今〉と〈これから〉の自己紹介」
第13回(7/14)〈プレゼン①〉〈全教員〉* 第13回と第14回でそれぞれ「ベスト」
第14回(7/21)〈プレゼン②〉〈全教員〉プレゼン賞を学生および教員の投票で決定。
第15回(7/28)〈投票結果発表など〉〈全教員〉

■ 教養ゼミの成果

毎時間の学生コメント、最後のプレゼンテーションおよびアンケートの結果より、全員が到達目標に達したことを、学生、教員とも確認した。

■ 問題点, 改善点, 対応策

開講曜日を木曜5時限に統一し、グループ分けを改善した。来年度も同様に行う。

人間文化学部 心理学科

■ 担当者氏名

青野篤子, 平 伸二, 山崎理央, 日下部典子

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数4, 各ゼミに13~14名の1年生が所属した。

■ 実施内容

前期

①ピア・サポート訓練(教員+学生サポーター)

主な内容:ピア・サポートとは(自分自身を知ろう, コミュニケーション), 傾聴について(聴き方のロールプレイ, 話し合ってみよう), ストレスへの対処

②プロブレム・ベースド・ラーニング(PBL)(教員+チューター)

6~7名のスモールグループで, 「大学生活での気になる出来事」についてのプリントを基に, 話し合いを通して課題を見つけ, その解決方法までをまとめた。最後に全体で各グループの発表を実施した。

③新入生歓迎かい(2年生主催)

後期

①レポート作成を学ぶ(教員+チューター)

考文献の探し方, 引用文献の書き方, レポートの構成などをテキストに基づいて学び, 各自が心理学に関わるテーマを見つけて, レポートの書き方を実習した。

②読書感想文を書く

③その他(福山市保健所による「ゲート・キーパー研修」, 29号館案内, 学生相談室案内およびメンタルヘルスについての講義(講師:松本先生), 図書館案内を実施)

■ 教養ゼミの成果

【授業全般】

初回は1年次生全員を対象に, 松田学長による特別講義(「ピア・サポート」という概念の紹介と必要性についての説明)が実施された。その後①ピア・サポート訓練では, 心理学科教員と3, 4年生の学生サポーターが「ピア・サポートをはじめよう」をテキストに, 学生同士がサポートしあうためのスキル(傾聴の基本スキルや質問・伝達スキル)の訓練を行なった。ロールプレイや話し合いを中心とした授業に出席することで, 傾聴やサポートの重要性を経験し, 互いに支えあう関係を築くことができた。また, ②PBLでは5回のスモールグループディスカッションや発表等の活動を通して, グループでの役割, 課題を見つけるところから発表までのプロセスを学び, グループ・ディスカッション・スキルを修得することができた。

後期は, テキストに基づいて, 論文作成の基礎を学んだ。図書館で各自のテーマに関わる参考文献を探し, 引用文献の書き方に基づいて, レポートを作成することができた。また, 読書感想文をまとめ, 各ゼミで発表し, 意見交換をすることができた。「学生相談室案内」を通してメンタルヘルスの重要さと, 臨床心理士による「ゲート・キーパー研修」で, 心理学で学んだこと地域でいかすことについて知ることができた。

【上級生からのサポート】

3年生, 4年生:①ピア・サポート訓練では, 学生サポーター養成講座のメンバーが2, 3名ほどでグループを形成し, 各教養ゼミに配属された。サポーターは10回の講義を通して1年生に対するピア・サポート訓練を実施した。また, 前期②PBLでは, 各ゼミに1名のチューターが配置され, グループワークのサポートをした。後期は図書館で参考文献を探す手助け, 引用文献の書き方などについて個別にサポートをした。

このような上級生がサポーターとして授業に参加することで, 1年生のピア・サポート訓練の効果や, グループワークがスムーズに進むなど, 学年を越えた交流が促進された。

■ 今後の課題

欠席, 遅刻者が複数みられたので, 対応を考えていく。

PBL, 「レポート作成を学ぶ」などは初めての取り組みだったので, 今年度の実施状況を基に, 改善を図る。

■ 特記事項

今年度も, 心理学科教員が作成した冊子(ピア・サポート訓練のテキスト)を1年生に配付した。

新入生合宿オリエンテーションでは学生サポーター養成講座の学生が考案したプログラムを実施した。

人間文化学部 メディア・映像学科

■ 担当者氏名

(代表): 渡辺浩司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数: 3 (一年次担任: 筒本、渡辺、阿部)

ゼミの学生数: 8 名程度

■ 前期実施内容

- 教務委員によるガイダンス
- 学生生活や学修に関するアンケート調査
- 少人数ゼミ(ゼミ学生の交流、SNS の活用について、等)
- 留学中の本学科学生との Skype を利用した交流
- 学科教員によるゼミ

■ 後期実施内容

映像制作のグループとイラスト・クラフトのグループとに分かれて制作を行った。映像制作のグループが制作した 3 編の短編映像作品は 2 月 25 日に福山駅前シネマモードで開催されたメディア・映像学科映画上映会にて上映され、ゲストの長崎俊一監督からもご講評いただくなどした。後者のイラスト・クラフトのグループは、自分たちの制作物を上下町で開催されたマーケット「アマチュア横丁」にて販売し完売するなど、地域の方々との交流の機会づくりの一端ともなっている。

■ 前期教養ゼミの成果等

- ・受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、学科に関係する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。
- ・自身の制作物を映画会等で発表することで、制作活動に対するモチベーションの向上に役立った。

■ 問題点, 改善点

特に問題はなかった。

工学部 スマートシステム学科

■ 担当者氏名

代表: 伍賀 正典

宮内 克之、三谷 康夫、仲嶋 一、田中 聡、香川 直己、関田 隆一、菅原 聡、沖 俊任、伍賀 正典

■ 実施内容

- 1 回目(4/13)概要説明、自己紹介
- 2 回目(4/20)授業の受け方、ノートの取り方、図書館訪問
- 3 回目(4/27)保健管理センター訪問
- 4～7 回目(5/11、5/18、5/25、6/1)小グループゼミ
- 8～15 回目(6/8、6/15、6/22、6/29、7/6、7/13、7/20、7/27)ロボット競技会企画

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では大学と学科についての説明の後、各自が自己紹介を行った。
- 2回目では基礎的なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。また、図書館に訪問し図書館職員による図書館利用の方法説明を行った。
- 3回目では、保健管理センター松本准教授の指導で学生相談ガイダンスを行った。
- 合宿オリエンテーションで実施した数学テストの結果から5つの小グループを作った。この小グループでゼミを行い数学基礎などの学力底上げを行った。
- 8～15回目まで、ミニロボットコンテストの企画・運営・参加を行った。各グループで自発的に役割分担が行われ、レスコンシーズのロボットキットの作成、ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール管理方法、パワーポイントでの企画の発表、競技会の実施と参加等を行い、グループでの協調作業を経験した。
- ロボット競技会企画の課題では 3 号館 1 階のプロジェクトルームを用い、ロボット競技は 3 号館エントランスホールで開催した。このグループでの作業は学生間の交流を深める狙いもあり、十分な効果が出ていると考えられる。
- このミニロボットコンテストの作成物は、8 月に神戸で行われた第 16 回レスキューロボットコンテスト併設の「あそぼう！まなぼう！ロボットランド」において、レスコンシーズ備後版として出展し、教養ゼミを受講した学生数名がスタッフとして参加した。また、三蔵祭の工学部イベントとしても出展し、1 年生数名が世話役として活動し、学外から 100 名を超える来場者があった。これらのロボットコンテストの内容をもとに、第 25 回計測自動制御学会中国支部学術講演会、IEEE 主催 2016 年度第 2 回学生研究発表会で教養ゼミを受講した 1 年生が登壇し口頭発表を行った。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

- ここ数年、教養ゼミ予算を利用してミニロボットコンテストを開催しており、1 年生同士の親交が深まり良い効果が得られ、またこのプロジェクトを中心に学会発表や学外イベントなども実施できている。
- 工作が得意な学生が中心となる傾向があること、全国イベントに出展し学会発表を行うため学生にとって難易度が高いことなどが取り組むべき課題としてあげられる。
- 工作が不得手な学生のスムーズなスキルアップを促すような、教材の開発を提案したい。学科での学習で必要となるマイコンの知識、プログラムの基礎などを取り入れることが効果的ではないかと思われる。
- イベントへの出展等で各教員の協力の下で学生への指導を十分に行い、学生の大学生活の糧になる経験となるように心がけたい。

工学部 建築学科

■ 担当者氏名

(代表・1年担任)佐々木伸子、宮地功

大島秀明、田辺和康、都祭弘幸、佐藤圭一、藤原美樹、山田明、伊澤康一、酒井要

■ 教養ゼミの目的

建築の初学者に対する入門授業として、「建築」で取り扱うジャンルがデザイン・計画・歴史・環境・構造・構法といった理系から文系にわたる広範な分野を扱うことを知ることを目的としている。

■ 実施内容

授業は PBL 形式で取り組み、ジャンルへの課題を探すことから始まり、興味と理解を深めていく流れで行った。各教員が 6～7 名の学生を担当してグループワークによって「松永地域」を対象フィールドとする課題に取り組んだ。

最終回は、ポスターセッション方式による成果発表会を実施し、所属したゼミで取り組んだ分野だけでなく、各ゼミで取り組んだプレゼンテーションを聴講することによって建築で取り組む幅広いジャンルと内容を学ぶ機会とした。

第1～14回;各ゼミでのグループワーク

第15回:ポスターセッション方式による最終発表会

- ・ 大島ゼミ 松永駅周辺の景観と色彩調査
- ・ 宮地ゼミ 羽原川について
- ・ 田辺ゼミ 芦田川水系の治水対策について
- ・ 都祭ゼミ 日本における住宅の現状 ～長寿命化～
- ・ 佐藤ゼミ 蘭草の生き様
- ・ 藤原ゼミ 松永公共施設見学マップ
- ・ 佐々木ゼミ 松永住むならランキング～福大生による福大生のための住宅調査
- ・ 山田ゼミ 松永地区の避難所を対象とした安全性についての調査
- ・ 伊澤ゼミ 地震からなる様々な災害
- ・ 酒井ゼミ 本当かえ～Emergen 市福山～松永・今津・柳津編～

■ 教養ゼミの成果

グループワークでゼミ毎に取り組んだ成果をポスターセッション形式により発表する際、担当教員による採点の他に学生による相互評価も行った。自ら評価をすることによって、他のゼミのテーマも詳しく知ることができ、発表会に主体的に参加できるという効果があった。

■ 課題

本年度は身近な地域自体をテーマとして取り組んだがその中で問題を取り出すことが難しかった。建築の初学者向けに問題を絞り込むなどテーマを検討することが課題である。

工学部 情報工学科

■ 担当者氏名

(代表) 占部逸正

■ 目的

1年次生に対し少人数クラスを編成し、初年次教育の一環として、コミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションなどの能力を伸ばす。あわせて、大学での学び、情報工学科での学びについて詳細を説明し、学生自らが大学でのより良い学びができるよう情報提供と指導を実施する。また、学生は、教養講座を受講し、幅広い学問的視野と教養を身に付ける。

■ 実施内容

実施回数 15 回のうち、7 回は、テキスト「大学学びのことはじめ：初年次ワークブック3訂」に基づき、1) 単位、時間割、履修方法の確認、2) 自己紹介、3) 受講の心得(勉強の仕方)、4) 学生相談室、図書館の利用法、5) 大学生活について(課外活動や大学祭など)、6) 資格取得、7) マナーアップ作戦として工学部新棟付近の清掃活動も実施した。残りのうち 3 回はグループワークを行い、5 回は教養講座を割り当てた。グループワークでは、学生を 5 人程度のグループに分け、各グループにコーディネータ役の教員 1 名を配置し、テーマを学生自ら発案してのグループディスカッション等を通して、創造性、自主性、論理的思考に関する実習を実施した。具体的には、

第 1 週 全体説明、グループ分け、アイスブレイク、連想と発想、アクティブラーニング、マインドマップ

第 2 週 グループ内での教えあい、アイデアの結合、論理的思考

第 3 週 スピーチ、聴講

を行った。グループワークでは、教養ゼミの趣旨を考慮し、

- ・学生同士のコミュニケーションの機会を多くとり、お互いの理解を深める
- ・学生と教員が接する機会を多くとり、学生と教員の距離を縮める
- ・コミュニケーション、ディスカッション、論理的思考、文書作成、スピーチを到達目的とした。

■ 成果等

教養ゼミを通して、大学生活や大学施設の利用方法を学んだ。また、少人数のグループにわかれてプレゼンテーションの準備作業を行うことによって、学生同士のコミュニケーションが活発になり、お互いをより深く理解できるようになった。多くの教員と話をする機会を多くとることにより、担任以外の教員とも気軽に話せる雰囲気を作ることができた。また、論理的な資料の作成方法の実習、スピーチの実習を通して、基礎的なプレゼンテーションスキルを修得させることができた。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

木村 純壮

■ ゼミの学生数

6 名

■ 実施内容

- 第 1 回 ガイダンス, 顔合せ・挨拶, 授業実施方法説明, 自己紹介準備
- 第 2 回 自己紹介, 動画撮影&視聴, 反省・感想記入, スピーチ, 大学環境
- 第 3 回 大学生活について 大学と高校の相違点, 大学生活の送り方の注意
- 第 4 回 学習方法, 受講の心構え, 授業の聞き方, ノートの取り方, 授業外学修
- 第 5 回 「モノづくりのまち備後」で何を学ぶか, 身だしなみ, 挨拶と言葉づかい
- 第 6 回 自己紹介と他人紹介
- 第 7 回 社会人としてのマナー
- 第 8 回 来客応対と客先訪問
- 第 9 回 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方 5 回分のまとめ
- 第 10 回 大学生活と就職, 就職概略スケジュール, 企業情報
- 第 11 回 就職活動, 就職試験, SPI適性検査模試実施(理科・物理関係), 解説
- 第 12 回 仕事と資格, 機械設計技術者試験 3 級, 機械技術者関係資格
- 第 13 回 時事問題 調査・整理・プレゼンテーション
- 第 14 回 高校生活と変わった点 将来計画策定 プレゼンテーション 感想発表
- 第 15 回 特別講義「企業におけるモノづくりの方法」(企業講師)
- 第 16 回 教養講座(1)
- 第 17 回 教養講座(2)
- 第 18 回 教養講座(3)
- 第 19 回 教養講座(4)
- 第 20 回 特別教養講座
- 第 21 回 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

初年次教育として, 大学生活への適応や注意点, 基礎力の育成と大学生活の目標, 将来計画等をテーマとして取り扱った. 実践・体験型の「マナー&コミュニケーション」として, 挨拶, 礼儀, 作法, 身だしなみ等の社会人マナー講座 5 回を実施した. 毎回の授業において, 説明・問題提起, 考察, 整理, プレゼンテーション, 質疑のプロセスを経るようにして, 学生が自分で考えること, プレゼンテーションやディスカッションの機会が増えることを重視した. 学生も積極的に, 関心を持って取り組み, 内容の重要性も理解しつつ, 概ね良好な評価であった.

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

ICT 関係のテーマ, 図書館オリエンテーション等の取り入れを検討したい.

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

野西 利次

■ ゼミの学生数

6 名

■ 実施内容

- 第 1 回 教養ゼミの説明、自己紹介
- 第 2 回 初年次教育(大学の施設・設備、大学での授業)
- 第 3 回 初年次教育(学生生活、卒業後の進路)
- 第 4 回 初年次教育(機械工学の学習、4 年間の勉学)
- 第 5 回 マナー及びコミュニケーション
(はじめに, “モノづくりのまち備後”で何を学ぶか, 身だしなみ, 挨拶と言葉づかい)
- 第 6 回 マナー及びコミュニケーション(自己紹介と他人紹介)
- 第 7 回 マナー及びコミュニケーション(社会人としてのマナー)
- 第 8 回 マナー及びコミュニケーション(来客対応と客先訪問)
- 第 9 回 マナー及びコミュニケーション(電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方)
- 第 10 回 物理演習問題を解く(単位、平面運動)
- 第 11 回 物理演習問題を解く(力のつりあい)
- 第 12 回 物理演習問題を解く(運動量と力積)
- 第 13 回 物理演習問題を解く(エネルギー)
- 第 14 回 物理演習問題を解く(振動)
- 第 15 回 特別講座
- 第 16 回 教養講座①
- 第 17 回 教養講座②
- 第 18 回 教養講座③
- 第 19 回 教養講座④
- 第 20 回 特別教養講座
- 第 21 回 教養講座⑤

■ 教養ゼミの成果等

第 1～4 回で、教養ゼミの意義、大学での勉強方法、生活態度、就職のための準備等について説明し、今後の勉学・生活面で進むべき方向を理解させた。第 5～9 回では、大学生あるいは社会人として必要な「マナーおよびコミュニケーション」をロールプレイングにより身に付けさせ、その重要性を認識させた。第 10～14 回では、高校教科書程度の基礎問題で演習を行って、物理の基礎力を身に付けさせ、これから機械工学専門科目を学んでいくための準備を進めた。

■ 問題点、改善点、次年度での対応策

物理の演習では、勉学意欲が学生によってかなり異なり、成果に差が出てくることが問題点である。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

内田 博志

■ ゼミの学生数

5名

■ 実施内容

- 第1回 ZelkovaとCerezoの使い方をマスターしよう
- 第2回 大学の図書館を利用しよう
- 第3回 健康な学生生活を送るために
- 第4回 大学でいかに学ぶか
- 第5回 福山大学をもっとよく知ろう
- 第6回 機械システム工学科を知ろう
- 第7回 スターリングエンジンとは何か
- 第8回 スターリングエンジンを動かしてみよう
- 第9回 スターリングエンジンに未来はあるか
- 第10回 特別講義(企業における開発・設計)
- 第11回～第15回 マナー&コミュニケーション(全5回)
- 第16回～第21回 教養講座(全5回)および特別教養講座

■ 教養ゼミの成果等

- ・第1回～第6回は、大学での学び方や大学生活の送り方など、大学生としての基本知識を学習した。また図書館オリエンテーションへの参加などを通じて、福山大学の各施設やサービスの利用方法を学んだ。第7回～第9回は、機械工学の技術を題材とした調査を通じて、インターネットの利用方法、レポート作成方法やプレゼンテーション手法を学んだ。ワード、エクセル、パワーポイントの使い方など、大学生に必要なPC利用技術を身に着けた。
- ・第10回は、学科で企業講師を招いて特別講義を開催し、企業における開発・設計の実情について学んだ。第11回～第15回はマナー&コミュニケーション講座として、社会の一員として身に付けておくべきマナーについて学んだ。第16回～第21回は、全学教養講座および特別教養講座を受講することとした。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

大学生としての基本知識の学習に比較的多くの回数を割いたが、大学生としての態度や心構えの面では、まだ教育不足を感じる。来年度は、人生をいかに生きるかに関する題材を取り入れ、その観点から学生時代をどのように過ごすかについて学習・考察する授業(5コマ前後)を実施する。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

真鍋 圭司

■ ゼミの学生数

6 人

■ 実施内容

1. はじめに、自己紹介など
2. 大学生活、単位の取り方、試験など
3. 大学での学習方法、レポート作成方法
4. 大学の施設、勉強方法など
5. マナーコミュニケーション(1) はじめに、“モノづくりのまち備後”で何を学ぶか、身だしなみ、挨拶と言葉づかい
6. マナーコミュニケーション(2) 自己紹介と他人紹介
7. マナーコミュニケーション(3) 社会人としてのマナー
8. マナーコミュニケーション(4) 来客応対と客先訪問
9. マナーコミュニケーション(5) 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方、まとめ
10. 数学に親しもう。関数について考える。変化率、微分
11. 微分の公式を覚えよう。
12. プレゼンテーションの基礎
13. 微分の問題を解き、解き方を説明する
14. 物理と数学がどのように関連しているか考えよう。
15. 特別講義
16. 教養講座(1)
17. 教養講座(2)
18. 教養講座(3)
19. 教養講座(4)
20. 特別教養講座
21. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

大学生活を始めるための基本的なことは十分説明できた。大学の施設案内では図書館を見学した。またマナーコミュニケーションでは、あいさつやマナーについて講義された。本ゼミでは数学を題材にして、エクセルを使って、問題を解いてプレゼンテーションし、コミュニケーションを取り合った。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

6 人ともまじめに取り組み、高校から大学生活へのスムーズな移行ができたと思う。コミュニケーションについては、無口な学生もあり、話し合いなどの方法が問題として残る。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

坂口 勝次

■ ゼミの学生数

6名

■ 実施内容

- 第1回 オリエンテーションと他己紹介
- 第2回 キャンパスライフとスタディスキルズ
- 第3回 探究テーマの決定と調査開始
- 第4回 情報収集・分析
- 第5回 テーマのまとめ
- 第6回 プレゼンテーション計画と構成
- 第7回 プレゼンテーション準備
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第9回 レポート作成・提出
『社会人としてのマナーとコミュニケーション』(内田・中東・小林教養ゼミと合同)
- 第10回 “モノづくりのまち備後”で何を学ぶか(身だしなみ, 挨拶と言葉づかい)
- 第11回 自己紹介と他人紹介
- 第12回 社会人としてのマナー
- 第13回 来客応対と客先訪問
- 第14回 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方, まとめ
- 第15回 特別講義「企業でのモノづくり」:ダイキョーニシカワ(株) 近藤弘信 講師
- 第16回 教養講座(第1回, 5月11日): 村上和雄 講師
『遺伝子オンにして可能性を伸ばす』
- 第17回 教養講座(第2回, 7月11日): 坂本直子 講師
『マラソンと私』
- 第18回 教養講座(第3回, 9月23日): 副島賢和 講師
『ひとりじゃないよ ～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～』
- 第19回 教養講座(第4回, 11月1日): 細川隆雄 講師
『鯨塚を巡り歩いて見えてきたもの～太古から続く日本人の大自然への感謝・畏敬～』
- 第20回 特別教養講座(12月12日): 田中文裕 講師, 井上恭介 講師
『里海 - SATOUMI - 今、中四国の宝“瀬戸内海”を知ろう!』
- 第21回 教養講座(第5回, 1月19日): 松沢哲郎 講師
『想像するちから ～チンパンジーが教えてくれた人間の心～』

■ 教養ゼミの成果等

「環境問題について」を本教養ゼミの統一テーマとした。このテーマを取り上げる理由と重要性を最初に説明し、技術の探究心と学修のモチベーションを高めることができた。

統一テーマにおいて、学生は自分で関心を持ち探究するための個々のテーマを設定した。学生自身が統一テーマについて調査し選択した個々のテーマは大きく分けて、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化、ゴミ問題であった。これら個々のテーマについて、原因と仕組み、技術的な対策の現状について、情報収集・分析・整理を行って再認識し、中間報告においてSGDを織り交ぜながら考察を行った。

本教養ゼミの統一テーマの取り組みによって、地球環境破壊の深刻さを認識し、安心・安全な未来の循環型社会を目指して技術者として社会に貢献する態度を醸成する意味でも、これからの学修の意義を自覚する機会になったと思われる。

また、大学での学修に関する技能・態度、社会人としてのマナー等の態度を身に付ける取り組みのほかに、企業人(技術者)を講師に招き産業界でのモノづくりの現状と技術者の仕事と心構えを知る「特別講義」も行い、新入生にとって将来に向けてこれからの大学生活をどのように送るかを考える機会になったと思われる。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

これまでの技術に関する情報収集・分析・整理と考察の授業からさらに発展させて、機械工学・技術分野の体験型学習を取り入れた授業方法を考えていきたい。体験型学習を取り入れることによって、学修のモチベーション向上に繋げたい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

関根 康史

■ ゼミの学生数

5人

■ 実施内容

1. はじめに、自己紹介など
2. 大学生活、単位の取り方、試験など
3. 大学での学習方法やレポートの作成方法について
4. 大学の施設や勉強方法など（＋”フロントマン教育が何故大切なのか？”について）
5. 安全を考えよう(その 1)「機械遺産」から安全を考える
6. 安全を考えよう(その 2)「モータースポーツ」から安全を考える
7. 安全を考えよう(その 3)「自動車アセスメント」から安全を考える
8. 安全を考えよう(その 4)「交通事故の事例」から安全を考える(前編)
9. 安全を考えよう(その 5)「交通事故の事例」から安全を考える(後編)
10. 特別講義
11. 教養講座(1)フロントマン教育(“モノづくりのまち備後”で何を学ぶか、身だしなみ、挨拶と言葉づかい)
12. 教養講座(2)フロントマン教育(自己紹介と他人紹介)
13. 教養講座(3)フロントマン教育(社会人としてのマナー)
14. 教養講座(4)フロントマン教育(来客応対と客先訪問)
15. 教養講座(5)フロントマン教育(電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方、まとめ)
16. 教養講座(1)
17. 教養講座(2)
18. 教養講座(3)
19. 教養講座(4)
20. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

今年度配属された学生は5名で、うち1人は2年生であった。この2年生については、本来の性格はまじめであるが「人と対話することが苦手」なことから、教養講座(フロントマン教育)で欠席を重ねてしまつて再履修となった模様。このため、「相手の気持ちを良くさせることが良い仕事をする上で大事である」ことを説明するようにしたところ、今年は欠席も少なくなり無事修了することができた。なお、大学生活を始める上での基本は十分説明できた。また、図書館の見学も実施した。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

本ゼミを履修した学生は5人であるが、当初の配属予定は6人であった。履修申告しなかった学生は2年生(再履修)であったが、1回も出席せず、かつ履修登録しなかったことを注意すると「自動的に再履修されている」と思っていた。教養ゼミは6回までは欠席できるので出席しなかった。」との返事であった。最初から「何回までは欠席できる」と思い込んでいる学生は、放棄をしてしまう危険性があるので、注意しておく必要がある。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

中東 潤

■ ゼミの学生数

6 名

■ 実施内容

- 【第1回】オリエンテーション、自己紹介の方法
- 【第2回】課外活動のすすめ
- 【第3回】資格の種類と取得方法
- 【第4回】図書館オリエンテーション
- 【第5回】リサーチの方法、プレゼンテーションの方法
- 【第6回】プレゼンテーション用資料の作成(テーマ:学生がだまされる危険について)
- 【第7回】プレゼンテーション
- 【第8回】プレゼンテーション用資料の作成(テーマ:スポーツと新素材)
- 【第9回】プレゼンテーション、キャリアデザイン、小まとめ
- 【第10回】“モノづくりのまち備後”で何を学ぶか 身だしなみ、挨拶と言葉づかい(1)
- 【第11回】挨拶と言葉づかい(2)、自己紹介と他人紹介
- 【第12回】社会人としてのマナー
- 【第13回】来客応対と客先訪問
- 【第14回】電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方
- 【第15回】特別講義「企業でのモノづくり」
- 【第16～21回】教養講座

■ 教養ゼミの成果等

受講生の主な感想は以下の通りである。

- ・大学生活において目標を決めることで改めて自分が何をしたいかを知ることができた。
- ・自分を理解していなかったので良いきっかけになった。自己紹介もスムーズにできた。
- ・大学について知っているようで知らないことがたくさんあったことに気づいた。自分のことは自分でしっかりと管理していかないといけないと思った。
- ・大学生活においては自発的に行動することが当たり前かつ大切なことであると感じた。
- ・事故やトラブルに巻き込まれた時の対処法などを学んだ。親や友人にも相談することも大切だと分かった。

等

以上のことから、学生個々で感じたことや得るものがあつたと考えられる。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

教養講座の欠席が多い学生がいた。また、出席しても講演概要や聴講感想の記述内容が乏しい学生がいたので、指導を強化したい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

小林 正明

■ ゼミの学生数

6 名

■ 実施内容

“モノづくりを楽しもう！”というテーマで実際にモノづくりを行いながらレポートの作成方法、プレゼンテーション方法などを学習した。

- 1) オリエンテーションと自己紹介
- 2) モノづくりに必要なこと
- 3) “からくり”のふしぎについて
- 4) ペーパーパラシュートの製作(1) 検討・製作
- 5) ペーパーパラシュートの製作(2) 検討・製作
- 6) ペーパーパラシュートの製作(3) 発表・レポート作成
- 7) 紙からくりの製作(1) 検討・製作
- 8) 紙からくりの製作(2) 検討・製作
- 9) 紙からくりの製作(3) 発表・レポート作成
- 10) “モノづくりのまち備後”で何を学ぶが 身だしなみ、挨拶と言葉づかい
- 11) 自己紹介と他人紹介
- 12) 社会人としてのマナー
- 13) 来客対応と客先訪問
- 14) 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方
- 15) 特別講義
- 16) 教養講座(1)
- 17) 教養講座(2)
- 18) 教養講座(3)
- 19) 教養講座(4)
- 20) 教養講座(5)
- 21) 教養講座(6)

■ 教養ゼミの成果等

本年度は各テーマを実施する前に大学での勉強内容だけでなく学生生活や就職活動などについても説明を行った。受講生からの質問等も多くあり学生生活について理解が深まったものと思われる。前半の教養ゼミでは、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生は教養ゼミの時間だけでなく講義の空き時間などを使って各テーマに取り組んでいた。また、後半では、マナーアップコミュニケーション講座を実施した。マナーアップコミュニケーション講座では社会人として必要なマナーなどを学習した。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

コミュニケーションをとれない学生が多かった。学生同士のコミュニケーションが取れるような内容を検討していきたい。

生命工学部 生物工学科

■ 担当者氏名

原口 博行

■ 生物工学科教育プログラムにおける教養ゼミの位置付け

生物工学科では、学習意欲を高め、目標を設定し達成することを目的として、演習科目や実験科目を教育プログラムに多く取り入れている。本学科カリキュラムにおいて教養ゼミは、本学・本学科の教育の特徴の理解を深めさせ、一般教養を高めながらさらに幅広く事象に対する興味を喚起する科目として位置付けて開設している。さらに初年次教育に求められている大学生生活への円滑な導入、および大学での学び方、教員や友人との信頼関係の構築にも役立つ内容を実施している。コミュニケーション力を育成するためにプレゼンテーションやディスカッションなどを積極的に取り入れて実施している。また、本年度からは、本学科のワインプロジェクトとの関連で、2年次生の果樹栽培加工実習とのリンクを試み、学年を超えた専門教育への導入を試みた(これについては課題も多くあった)。本学では教養ゼミを前期2単位の講義科目として15回実施しているが、本学科では演習科目として捉えて、通年 30 回実施している。加えて、教養講座も本科目の一環としてとらえている。実施回数のゆとりを活用して、随時他科目の補講にも利用することを可としている。

■ 実施内容

回	実施日	内容
第1回	平成 28 年 4月 13 日	【大学生生活への導入・・・履修登録】 ITC 教室で履修登録の続きを行い完成させる。(担任が指導)
第2回	平成 28 年 4月 20 日	【福山大学の理解・・・教養ゼミガイダンス】 ・カリキュラムの中での教養ゼミ・教養講座の目的について解説。 ・教養ゼミ で取り上げたいテーマについて話し合う。 ・履修登録の再確認(教務委員) ・新入生歓迎会について(3年次生が案内)
第3回	平成 28 年 4月 27 日	【お互いを知ろう・・・スポーツレクリエーション】 グループに分かれて、体育館でスポーツ雪合戦を行う。
第4回	平成 28 年 5月 11 日	【第1回教養講座】 筑波大学名誉教授 村上和雄先生「遺伝子をオンにして可能性を伸ばす」
第5回	平成 28 年 5月 18 日	【福山大学の理解・・・自校教育】 福山大学・生物工学科の歴史について解説。
第6回	平成 28 年 5月 25 日	【お互いを知ろう・・・ディスカッション】 話題1 知的ゲーム「ウマ・ヒツジ・サル・ライオン・ウシ」(発表) 話題2「目からウロコ」、「WAZA」などを例に、言い回し・熟語の由来から、教養とは何かについて話し合う。
第7回	平成 28 年 6月 1 日	【教養を広げる・・・専門への導入】 「遺伝子のはなし」
第8回	平成 28 年 6月 8 日	【補習時間】 前日の警報のため休講となった化学Ⅰの試験を実施
第9回	平成 28 年 6月 15 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「オバマ大統領の広島での所感全文を読んで」 話題2 知的ゲーム「サンドイッチゲーム」

第 10 回	平成 28 年 6 月 22 日	【補習時間】 前日の警報のため休講となったバイオ演習Ⅰでの生物工学基礎実験の実 習講義
第 11 回	平成 28 年 6 月 29 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「英国の EU 離脱」について討論 話題2「18 歳選挙権と日本人の政治参加意識」についてフリートーキング
第 12 回	平成 28 年 7 月 6 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 「バングラデッシュでのテロ」などについて討論
第 13 回	平成 28 年 7 月 11 日	【第2回教養講座】 アテネ五輪代表 坂本直子先生「マラソンと私」
第 14 回	平成 28 年 7 月 13 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「地理・歴史、高校教育の困難」(読み物)を読んで討論 話題2 話題 1 をフォローし、「こんな科目があればいいのに」(フリートー キング)
第 15 回	平成 28 年 7 月 20 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1リオデジャネイロ五輪開会を前に「国家とスポーツ、競争と協力」(読 み物)を読んで討論 話題2「海の日・山の日」について(フリートー キング)
第 16 回	平成 28 年 7 月 27 日	【学習意欲の喚起】 前期試験・夏季休暇に関する留意点 本年前半の出来事(フリートー キング)
第 17 回	平成 28 年 9 月 23 日	【第3回教養講座】 昭和大学大学院保健医療学研究科 副島賢和先生「ひとりじゃないよ～院 内学級の子供たち教えてくれた大切なこと～」
第 18 回	平成 28 年 9 月 26 日	【学習意欲の喚起】 後期履修に関するガイダンス(教務委員)
第 19 回	平成 28 年 10 月 3 日	【福山大学になじむ・・・みんなで大学祭】 大学祭学科企画の案提示と担当振り分け
第 20 回	平成 28 年 10 月 24 日	【大学という組織での倫理観】 研究倫理に関する大学事務局からの冊子を解説。同時にレポート作成など における引用等、知的所有権について講ずる。
第 21 回	平成 28 年 10 月 31 日	【学習意欲の喚起】 話題1「英語の公用化、是か非か」(読み物)を読んで討論 話題2 話題 1 をフォローし、「日本の伝統・文化について」(フリートー キン グ)
第 22 回	平成 28 年 11 月 1 日	【第4回教養講座】 愛媛大学名誉教授 細川隆雄先生「鯨塚を巡り歩いてみてきたもの」
第 23 回	平成 28 年 11 月 7 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1 米大統領選を控えてポピュリズムについて考える:討論 話題2「一票の格差は違憲か」について考える:討論
第 24 回	平成 28 年 11 月 14 日	【学習意欲の喚起】 「国公立大学文系廃止」「大学教育と反知性主義」(読み物)を読んで教養 というものについて考える:討論
第 25 回	平成 28 年 11 月 21 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1 求められる人間像〇〇力:全員発表 話題2 北方領土の返還は:討論

第 26 回	平成 28 年 11 月 28 日	【補習時間】 生物有機化学の試験
第 27 回	平成 28 年 12 月 5 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 今年の流行語から世相を観る
第 28 回	平成 28 年 12 月 12 日	【特別教養講座】 田中丈裕先生・井上恭介先生「里海、今中四国の宝、瀬戸内を知ろう」
第 29 回	平成 28 年 12 月 19 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1 今年の漢字から世相を観る 話題2「バスク・ヤボニカ」(読み物)を読んで討論
第 30 回	平成 28 年 12 月 22 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 今年の 10 大ニュースは？ アンケートと発表
第 31 回	平成 29 年 1 月 16 日	【学習意欲の喚起】 大学生活の 1 年間を終えようとして
第 32 回	平成 29 年 1 月 19 日	【第5回教養講座】 京都大学特別教授 松沢哲郎先生「想像する力～チンパンジーが教えてくれた人間の心～」

■ 評価について

提出されたレポート(教養講座を含む)を教養ゼミ担当教員が点検・評価。態度(主に討論や発表に対する積極的参加度)を総合的に評価した。その結果概ねの学生が 80 点以上の評価となった。レポート等提出物は学生に返却済み。

■ 次年度への課題

- (1)教養講座が教養ゼミの一環として実施されるようになり、前年度に続き教養ゼミの中での位置付けをしっかりとさせることを念頭に、教養講座の内容をディスカッションの題材として取り上げる時間を持てた(上記の表には入っていない)ことは、さらに進めたい。
- (2)福山大学教育システムを周知徹底して、教養ゼミを含めた本学での学び方を全学生に理解を促すことにさらに取り組む。
- (3)時事的な社会性の高い話題をテーマにすることにより、学生が取りつきやすい傾向があり、引き続き取り上げたい。
- (4)ワイン・ブドウプロジェクトとの連動のため、2年次生の果樹生産加工実習の一部を1年次生との共同作業とするシラバスを提示したが、日程や天候の都合で、予定通りには行えなかった。次年度は流動性のある日程で取り組みたい。

生命工学部 生命栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表) 菊田安至

山本英二、高橋知佐子、村上泰子、石崎由美子、木村安美、
赤木収二、近藤寛子、久保田みどり、石井香代子

■ ゼミ数、ゼミの学生数

ゼミ数: 5 ゼミの学生: 10 名

(ただし、各期の前半はクラス全体で実施し、後半は少人数制ゼミで実施。)

■ 前期実施内容

3回の全体ガイダンス(大学・学科の説明、履修登録など)に加えて図書館見学、保健管理センター見学、学科親睦スポーツ大会など合計7回を導入教育とし、大学における学修の全体像を把握するとともに、大学での生活に慣れることを主目的として行った。さらに、基礎学力向上プロジェクトを少人数で5回実施した。基礎学力向上プロジェクトでは、国語、化学、生物学、栄養学などの基礎科目に対する取り組み方の理解と基礎学力アップを目指した学修を行った。本学科は、1年次前期から管理栄養士の国家試験に出題範囲に含まれる専門科目(栄養学、食品学、医学、生化学など)が開講されており、教科書の専門用語の語句や漢字の理解が難しく学生が十分に対応できていない。そのため、学科の専門科目の履修に必要な基礎学力の向上を優先している。さらに、後期の大学祭のための事前学修を1回行っている。この他に、教養講座に2回参加し、教養を深めた。

以上の15回の教養ゼミにより、学生生活へのスムーズな移行に必要な知識と技能を学んだ。

■ 後期実施内容

後期の授業開始と同時に、大学祭での学科紹介のための準備を、役割を決めて7回集中的に実施した。イベント係、食品係、展示係などに分かれて、それぞれが責任を持って準備し、大学祭当日は展示の説明にあたるなどした。これらの活動を通して、共同による課題解決の方法をアクティブ・ラーニング形式で学んだ。

大学祭終了後に少人数班別ゼミナールを5回行った。班別ゼミナールは、専門分野を学修するにあたり必要な技能と態度の修得を目指し、学士になる目的、管理栄養士の社会的役割、医療職に就くことの意味についてそれぞれ学び、本学科で学ぶことの意義や心構えを十分に学んだ。この他に、後期中に4回行われた教養講座に参加し、教養を深めた。

■ 教養ゼミの成果

大学における学修への取り組み方は、入学直後の6月までには決まると言われている。大学生活をスムーズに開始することができるように、前期は大学で必要な様々な知識と能力を集中して学んだ。さらに、大学生活での目標を明確に定め、それに向かって進む道筋を分かりやすく示すことで、4年間の学修の基礎を築いた。

後期は、大学祭に参加することを通じて、コミュニケーション能力の向上と、人と交わりながら課題を解決する能力の習得を目指した。少人数ゼミナールでは、専門的な学修により管理栄養士資格を取得し、そして社会で活躍するまでの進路を明示した。

■ 問題点、改善点、次年度に向けた課題

卒業までに学生がそれぞれの目標に到達できるか否かは、入学時の学力よりも学修を継続する意思の強さ(モチベーション)が強く関わっている。入学直後から将来の進路を説明しているが、今年度は真剣になれない学生が多く、出席率の低下が顕著であった。また、入学時に学力の低い学生は、入学直後からすでに授業について行けず、早々に意欲を失う傾向がある。入学時の学力差を解消するための授業を展開しているが、学生の反応は全般的に低かった。

本学科では入学直後の前期から管理栄養士の資格取得に関わる専門科目の授業が行われることから、教養ゼミの成果をゆっくりと待つ余裕はない。入学直後の意識づけに重点を置いた形式に見直しを行う。

■ 担当者氏名

(代表) 三輪泰彦

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数:13

ゼミの学生数:8-9 名

全学生数:105 名

■ 前期実施内容

- 1)全体ガイダンス:教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験、学習支援等の補足説明
- 2)自己紹介(自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成)
- 3)図書館の利用法によるガイダンス
- 4)個人面談-学生生活、欠席調査など
- 5)大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 6)大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 7)大学祭の展示企画- テーマの決定-全員でディスカッション
- 8)大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 9)定期試験への心構え

■ 後期実施内容

- 1)個人面談(前期成績のチェックや学生生活など)
- 2)大学祭の計画-工程表の作成
- 3)大学祭の準備-1 ポスター、看板、展示物の作成、準備作業の役割分担等
- 4)大学祭の準備-2 水槽のセットアップ、観賞魚の飼育、金魚の飼育、展示する魚の採集、展示物の作成等
- 5)大学祭の準備-3 会場の設営、展示物の備え付け、大学祭当日の役割分担およびスケジュールの調整等
- 6)大学祭- 来場者への対応
- 7)大学祭- あとかたづけ
- 8)個人面談-欠席調査など
- 9)大学祭の反省会
- 10)定期試験への心構え

■ 教養ゼミの成果等

- (1)スモールグループディスカッションによる少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
- (2)学生生活や教務(履修方法、欠席調査、ゼルコバの操作方法、定期試験への対応など)の情報を学生に周知させ、サポートすることができた。
- (3)大学祭展示企画のテーマを決定するために各グループで提案された企画案について全体討議を行うが、例年、司会進行役は教員が担当していた。平成 27 年度からその役を学生にバトンタッチした。今年度も、学生が立候補して司会進行役を務めてくれた。
- (4)プロダクトとして大学祭の展示企画(3つのテーマ、展示内容、必要物品等)についてまとめることができた。
テーマ:1)魚-クラリー・2)南米に住む魚たち・3)金魚すくい(定番)。

- (5) 大学祭を通じて学生同士の団結力(仲間意識)を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。一方、準備などを進んでやらない同級生に対して、リーダーシップやコミュニケーション力をどのように発揮したらよいのかを学ぶための良い機会を与えることができた。
- (6) 大学祭の来場者(小中学生や高齢者、親子連れなど)への対応を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、知識をもたない人に興味をもって理解してもらうためには、何をどのようにして伝えたらよいのか、実践することでコミュニケーションを取ることの難しさや、コミュニケーション力を身につける必要性を学ぶことができた。
- (7) 大学祭のかたづけでは男子も女子も、人の嫌がることを進んでやってくれたので責任感をもたせることができた。
- (8) 学生一人一人に、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点、学科展示に参加した感想などをそれぞれ、まとめてもらった。
- (9) 平成 27 年度の改善点の一部を今年度にフィードバックすることができた。

■ 問題点, 改善点, 対応策

- (1) 教養ゼミが時間割の都合で 5 時限に開講しているが、1〜4時限の授業を受けている学生にとっては疲れがでて、集中力を維持するのが難しい場合があった。
- (2) 教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では月〜金の午後から学生実験が組み込まれているため教員によっては一部スケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島キャンパスから本学に移動するため、教員の負担が非常に大きい。
- (3) 今年度は以前に比べて積極的にテーマごとにリーダー、副リーダー、書記に立候補し、その運営に指導能力を発揮してもらった。今年度は、しっかりとリーダーシップを発揮する学生の割合が顕著に増えた。しかしながら全体で3テーマであることから1テーマあたりの学生数が 30〜40 名と非常に多いので学生リーダー、副リーダーだけでは展示企画の仕事を進めていくのが難しいと感じた。次年度から1テーマあたり、3グループに分けて役割分担を決め、グループごとのサブリーダー、副リーダー、書記を中心に運営を進め、テーマのリーダーが各グループを統括するようにする。
- (4) 大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員や各サークルに所属しており、大学祭の期間は執行部やサークル活動の仕事にそれぞれ専念してもらった。その際、担任にその旨を報告、連絡させた。
- (5) 大学祭やスモールグループディスカッションにおいて学生が主体となって取り組むことができる環境づくり(目標をしっかりと理解してもらう、学生の意見や考えを発表しやすい雰囲気をつくること、積極性を引き出す手法を考えることなど)を継続して行っていく。
- (6) 昨年度と同様に、学生からのアンケート調査を行い、展示企画の問題点、反省点、今後の改善点を次年度の教養ゼミにフィードバックしていく。
- (7) 各研究室に所属する4年生による3つの専門コース(資源利用育成コース、フィールド生態環境コース、水産食品科学コース)の展示とジョイントした。1年生は4年生による展示に興味を示し、先輩達の研究内容を積極的に聞く学生も一部にみられた。少しずつ学年間の交流が円滑にみられるようにアクティブラーニングを通じて「学年の縦のつながり」を構築していきたい。

薬 学 部

■ 担当者氏名

(代表)井上裕文

(担当)岡村信幸、井上裕文、田淵紀彦、上敷領淳、松岡浩史、前原昭次

渡邊正知、坂根 洋(薬学入門担当)

堤 宏之、道原明宏、本屋敷敏雄(クラス担任)

■ ゼミ数, ゼミの学生数

新入生全員に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実施内容

1 薬学入門Ⅰ(担当責任者:田淵紀彦)

毎週、クラス単位でスモールグループディスカッション(SGD)を行い、薬学入門担当教員(3名)ならびにクラス担任(2名)がチューターとして指導を行い、さらに5年生も学生チューターとしてサポートにあたった。

※日程・方略は別紙参照

2 教養講座(担当責任者:井上裕文)

教養講座(5回)、特別教養講座(1回)を受講後、レポートを毎回提出させ、クラス担任が指導を行った。

■ 教養ゼミの成果等

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・学生－教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・能動学習のための動機づけ
- ・問題解決能力の向上
- ・挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点, 改善策等

・学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。

・平成28年度は教養講座を欠席し、教養講座レポート未提出のため、1名の学生が不合格となった。この学生は1年次留年生で新入学1年生は全員合格であったことから、新入生オリエンテーションでの徹底した周知の効果があつたものと考えられる。今後も教養ゼミ(教養講座)について新入生オリエンテーションで徹底して周知する予定である。

薬学入門前期 (平成28年度)

4月					5月					6月					7月				
		3	4	5			3	4	5			3	4	5			3	4	5
1	金				1	日				1	水				1	金			
2	土				2	月				2	木				2	土			※1, 2眼目
3	日	入学式			3	火		憲法記念日		3	金				3	日			
4	月				4	水		みどりの日		4	土				4	月	方略9B(発表会準備) (P1)		
5	火				5	木		こどもの日		5	日				5	火	方略9B(発表会準備) (P2)		
6	水				6	金				6	月				6	水	方略9B(発表会準備) (P3)		
7	木				7	土			※1, 2眼目	7	火				7	木			
8	金				8	日				8	水				8	金			
9	土				9	月		方略5 (P1)		9	木				9	土	授業予備日		※1, 2眼目
10	日				10	火		方略5 (P2)		10	金				10	日			
11	月		方略1(P1)		11	水		方略5 (P3)		11	土				11	月	方略9C 発表会 (P1)		
12	火		方略1(P2)		12	木				12	日				12	火	方略9C 発表会 (P2)		
13	水		方略1(P3)		13	金				13	月				13	水	方略9C 発表会 (P3)		
14	木				14	土		方略6 石原先生		14	火				14	木			
15	金				15	日		開学記念日		15	水				15	金			
16	土	方略2 菅先生		※1, 2眼目	16	月		方略7 (P1)		16	木				16	土	授業予備日		※1, 2眼目
17	日				17	火		方略7 (P2)		17	金				17	日			
18	月		方略3(P1)		18	水		方略7 (P3)		18	土			※1, 2眼目	18	月			
19	火		方略3(P2)		19	木				19	日				19	火			
20	水		方略3(P3)		20	金				20	月				20	水			
21	木				21	土			※1, 2眼目	21	火				21	木			
22	金				22	日				22	水				22	金			
23	土			※1, 2眼目	23	月		方略8 (P1)		23	木				23	土	授業予備日		※1, 2眼目
24	日				24	火		方略8 (P2)		24	金				24	日			
25	月		方略4 (P1)		25	水		方略8 (P3)		25	土			※1, 2眼目	25	月			
26	火		方略4 (P2)		26	木				26	日				26	火			
27	水		方略4 (P3)		27	金				27	月				27	水			
28	木				28	土			※1, 2眼目	28	火				28	木			
29	金		昭和の日		29	日				29	水				29	金	前期定期試験開始		
30	土			※1, 2眼目	30	月				30	木								
					31	火													

薬学入門前期方略 (平成28年度)

方略	到達目標	日	細目	学習内容	場所	人的資源	時間 (分)	備考
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。 【今心にあること】 希望、期待、不安を認識する。	4月11～13日 (月～水) 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	1-1	講義 1. 薬学入門について(約15分) 2. SGDについて 3. KJ法について	研修室1	岡村・長崎・井上・渡邊・田淵・ 上・敷領・広瀬・木原・坂根・前原 (担任)	40	資料配付・作業説明
			1-2	SGD 「今心にあること(希望、期待、不安)」を 抽出(KJ法)	研修室1	担任	10	資料配布:課題(1) 「今心にあること」をタック シールに書き出す
			1-3	SGD 「今心にあること(希望、期待、不安)」の 島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを作 成する
			1-4	SGD 今日からできること(今後の行動目標)		担任	30	資料配布:課題(2)
			1-5	発表 発表(各5分)・総合討議(各15分)	研修室1,2	担任	50	
2	【ヒューマニズム・コミュニケーション】 行動変容のための役立ち感と幸せに ついて気づきの学習をする。	4月16日(土) 1～2時限	2	講義 1 身体とところの体感・気付きのワーク 2 グループワーク (お友達のを借りて問題解決)	研修室1, 2	菅 (担任)	180	
3	【薬とその適正使用】 1. 「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2. 種々の剤形とその使い方について 討議し、概説できる。 3. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを 討議し、概説できる。	4月18～20日 (月～水) 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	3-1	講義 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 について(KJ法)	研修室1	井上・坂根・田淵 (説明) (月、火、水)	10	作業説明
			3-2	SGD 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 について抽出(KJ法)	研修室1	担任	15	意見をタックシールに書き 出す
			3-3	SGD 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 の島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを作 成する
			3-4	発表 発表(各5分)・討議(各5分)	研修室1,2	担任	50	発表:模造紙
			4-5	調査 SGD 疑問点についての調査とまとめ	研修室1	担任	60	

4	【薬剤師の活動分野】 1. 薬剤師の活動分野について概説できる。 2. 自分の将来の進路とその仕事内容について討議する。	4月25～27日 (月～水) 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	4-1	講義	「薬剤師の仕事の種類 (卒後の進路と仕事内容)」 について	研修室1	井上・坂根・田淵 (説明) (月、火、水)	10	作業説明
			4-2	SGD	「薬剤師の仕事の種類 (卒後の進路と仕事内容)」 について抽出	研修室1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表
			4-3	SGD	「薬剤師の仕事の種類」についてマインドマップの作成		担任	40	模造紙にマップを作成
			4-4	発表	発表(各5分)・討議(各5分)	研修室1,2	担任	50	発表:模造紙
			4-5	調査 SGD	疑問点についての調査とまとめ	研修室1	担任	60	書籍を利用して調査
			5-1	講義	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事 (仕事内容と係り合い)」 について	研修室1	井上・坂根・田淵 (説明) (月、火、水)	10	作業説明
5	【薬剤師の活動分野】 1. 病院ならびに保険調剤薬局における薬剤師の役割について調べて調べる。薬剤師の役割を概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について討議し、概説できる。 【事前学習】 1. 見学施設への質問内容について調べ討議する。	5月9日～11日 (月～水) 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	5-2	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事 (仕事内容と係り合い)」 について抽出	研修室1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表
			5-3	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事」についてイメージマップの作成		担任	40	模造紙にマップを作成
			5-4	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)	研修室1,2	担任	50	発表:模造紙
			5-5	調査 SGD	疑問点についての調査とまとめ	研修室1	担任	60	書籍を利用して調査
			5-6	SGD	見学施設への質問内容をリストアップ	研修室1	担任	20	ホワイトボードに意見を書く USBメモリー持参 自己紹介票の雛形配付
			6	講義	1. 基本的なマナー・コミュニケーション 2. 薬剤師のやり甲斐	研修室1, 2	石原 (担任)	180	レポート提出
6	【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】 薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ。	5月14日(土) 1～2時限							

【事前学習】 1. 見学施設におけるマナーならびに 注意点を討議する。 2. 見学施設への事前連絡の仕方ならびに 質問内容について討議する。	自己学習		調査課題：見学施設への質問内容や専門用語について						
	5月16日～18日 月～水 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	7-1	講義	訪問時の注意点や事前連絡の 仕方について		34202	田淵	10	作業説明
		7-2	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の 仕方について討議		研修室1	担任	30	ホワイトボードに まとめる
		7-3	発表	発表(3分)・討議(5分)				60	発表:ホワイトボード
		7-4	DVD	発表準備(注意事項や質問内容など)		34202	井上	40	
		7-5	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方や 見学施設への質問内容を再討議		研修室1	担任	20	
		7-6	SGD	質問票の作成				20	質問票の雛形配付 USBメモリー持参
	5月23日～ 6月4日	質問票提出		質問票・自己紹介票を担任に提出 (5/30まで)		※担任は質問票・自己紹介票を点検後 6/4までに施設へFAX			
		事前連絡		見学施設(指導薬剤師)へ連絡し、事前に訪問時間等を調整					
		自己学習		質問内容や専門用語について充分学習しておく					

7

8	【グループ学習方法を学ぶ】 みんなで学習しよう	5月23日～ 5月25日 (月～水) 3～4時限	8	SGD	各科目の問題を個人およびグループで解答する。	研修室1	井上(説明) 薬学入門担当教員	180	作業説明 資料の配布
9	【早期体験学習】 1. 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。 2. 保険薬局における薬剤師の業務を見聞し、その重要性について意見をまとめ、発表する。	6月13日～ 6月29日 ※詳細は 日程表参照	9A	見学	体験学習	病院	指導 薬剤師	60～ 240	
			自己学習		討議・まとめ、発表準備	薬局		60～ 240	
		7月4～6日 (月～水) 3、4時限	9B	SGD	発表準備 後期実習施設選択	研修室1	担任	180	ノートPC 施設選択票の配付・回収
		7月11～13日 (月～水) 3、4時限	9C	発表	発表・討議(各5分)	研修室1	担任	180	クラス別公開発表会 (施設単位)

大 学 教 育 セ ン タ ー